

かながわ考古学財団 入門講座

平成 20 年度 ～ようこそ考古学～

第3回 テーマ ようこそ縄文のムラへ — 連続講座「住まい」① —

日時：9月5日(金) 19:00～20:30
 場所：かながわ県民センター 402 会議室 (横浜駅西口徒歩 5 分)
 講師：天野賢一(かながわ考古学財団)
 定員：90名(応募者が定員を超えた場合は先着順)
 費用：無料
 申し込み方法：往復はがき又はメールに行事名、氏名、住所、電話番号を明記して、かながわ考古学財団 野庭出土品整理室までご応募ください。
 しめきり：8月29日(金)消印有効

夏休み考古教室 2008

体験考古学

内容：中学生・高校生を対象とした発掘調査と出土品整理作業の体験
 日程：中学生7月28日(月)・29日(火) 高校生7月30日(水)・31日(木)
 時間：9:30～16:00
 場所：(1日目)発掘調査体験 相模原市No.185 遺跡発掘現場 相模原市当麻 116-8
 (JR 相模線「原当麻」駅より神奈中バス「当麻市場」下車徒歩5分)
 (2日目)出土品整理作業体験 野庭出土品整理室 横浜市港南区野庭町 1660
 (京急「上大岡」駅・市営地下鉄「上大岡・上永谷」駅・JR「港南台・洋光台」駅より市営バス「すずかけ通」下車徒歩3分)

※天候等の事情により予定が変更になる場合があります。

申し込み方法：往復はがきに行事名、氏名、住所、電話番号、学校名、学年を明記し、かながわ考古学財団野庭出土品整理室までご応募ください。

定員：中学生 10 名、高校生 10 名

※2日とも参加できる生徒

費用：無料

しめきり：7月17日(木)消印有効

※応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。



じつはこれ、弥生時代の壺なんです。「えっ、でも縄目が表面につけられているよ!」と、そんな声が聞こえてきそうですが、神奈川県の弥生土器には部分的に縄目の文様が付けられています。「縄目の文様と言えば縄文時代」、そうとも言い切れないんですね。縄文時代の伝統がまだ残っていたのでしょうか?そこは皆さんで考えていきましょう～。



発掘帖バックナンバーはホームページ (<http://www.kaf.or.jp>) からダウンロードできます。

お申し込み
お問い合わせ

(財) かながわ考古学財団 野庭出土品整理室
 〒234-0056 横浜市港南区野庭町 1660 E-mail: fukyu@kaf.or.jp
 TEL: 045-842-9888 (平日 8:30～17:15) FAX: 045-842-9904

考古学財団発掘帖

2008
2号

かながわ考古学財団情報誌 通巻5号 平成20年6月20日発行 年4回発行



相模原市 津久井城跡(馬込地区) (つくいじょうあとまごめちく)

津久井城は、相模原市城山町の城山(しるやま)(標高 375m) 一帯に所在した戦国時代の山城です。馬込地区は、城山の山頂から1kmほど東側に位置し、標高約 135～160mを測ります。調査は、津久井広域道路建設に伴って、2006年2月1日から2007年10月15日まで実施しました。その結果、旧石器時代の石器群や縄文時代の落とし穴状土坑群、中世戦国期の堀や近世の建物跡など、時期を違えた遺構が多数発見されました。

写真は、戦国期に築かれたと思われる空堀(からぼり)です。最大幅約8mを測り、堀底はV字を呈し、深さは最大で3m程ありました。江戸時代には大規模な造成が行われ、堀も削られ、埋められていました。

目次

- 発掘現場・出土品整理インフォメーション
 - 伊勢原市: 伊勢原市No.71 遺跡
 - 相模原市: 小保戸遺跡
 - 海老名市: 杉久保内藤原遺跡
- 考古学ミニコラム
 - 古墳時代の刀
 - くいず
- 行事案内
 - かながわ考古学財団入門講座
 - 夏休み考古教室 2008



(財) かながわ考古学財団

〒232-0033 横浜市南区中村町 3-191-1
 ☎ 045-252-8689 FAX 045-261-8162 URL <http://www.kaf.or.jp>

発掘現場・出土品整理 インフォメーション

ぼくは川尻中村遺跡(相模原市)のはちまき土偶はっちです。発掘調査や出土品整理中の遺跡の紹介をします



伊勢原市No.71 遺跡 (いせはらしなんばー71 いせき)

(所在地)	伊勢原市	(時代)	近世、中世、縄文時代	(調査期間)	2008年1月17日～
-------	------	------	------------	--------	-------------

伊勢原市No.71遺跡は、県域中西部に位置する伊勢原市の下糟屋^{しもかすや}に所在し、渋田川左岸にある低位の丘陵上に位置しています。調査は独立行政法人都市再生機構による区画整理事業に伴って実施しています。

今回の調査地は、伊勢原市No.71遺跡のうち中世城郭の丸山城跡に該当します。この丸山城は、鎌倉に仕える在郷^{ざいこう}の糟屋氏によって中世初頭に築城されたと伝えられていますが、詳しいことはまだわかっていません。これまでの調査で、丸山城の周囲を巡っている幅約17m・深さ5m程度の堀などが検出されました。

堀の外側には柱を立てた建物跡や竪穴^{たてあな}を掘り込んで半地下式にした建物跡が複数見つかり、城の外郭部分に位置する作業場などのさまざまな施設であったと考えられています。遺物はそれぞれの遺構から、中世以降の陶磁器類や「かわらけ」と呼ばれる素焼きの器の破片が出土しています。

中世 堀

(2008年4月) ➡



小保戸遺跡 (こぼといせき)

(所在地)	相模原市	(時代)	近世、中世、奈良・平安時代、縄文時代、旧石器時代	(調査期間)	2007年2月1日～
-------	------	------	--------------------------	--------	------------

小保戸遺跡は、相模原市城山町小倉地先に所在する遺跡です。地形的には串川と相模川との合流地点のすぐ西側に位置しており、串川によって形成された河岸段丘上に立地しています。調査は一般国道468号(さがみ縦貫道路)建設に伴う事前調査として実施しています。

これまでの調査で、近世以降、中世、奈良・平安時代、縄文時代、旧石器時代の各時期の遺構や遺物が発見されています。

調査開始前、遺跡内の地形は緩やかな平坦地でした。しかし、調査を進めて行くと、何と縄文時代の前半の時期には、この地に大きな埋没谷が存在していたことが明らかになりました。落とし穴は、この谷に水や落下した実などを採りに来たであろう動物たちをねらって作られたのでしょう。現在まで、谷底付近を中心に約300基もの落とし穴が発見されています。

縄文時代 落とし穴

(2008年1月) ➡



杉久保内藤原遺跡 (すぎくぼないとうはらいせき)

(所在地)	相模原市	(時代)	近世、中世、奈良・平安～弥生時代、縄文時代、旧石器時代	(調査期間)	2006年11月1日～ 2007年3月15日
-------	------	------	-----------------------------	--------	---------------------------

杉久保内藤原遺跡は、海老名市の中央部、第一東海自動車道(東名高速道路)の海老名サービスエリアから谷戸部をはさんだ南西約300mの台地上に位置しています。遺跡西側の崖面には、杉久保内藤原横穴墓群という古墳時代の墓域が隣接しています。調査は、海老名サービスエリア上り線側の減速車線延伸工事に伴って実施しました。今回の調査により、本遺跡が旧石器時代から占地されていたことが明らかとなり、旧石器時代から縄文時代にかけては、狩場として一時的に利用されていたようです。

また、当初想定されていなかった、弥生時代の住居跡が発見されたため、本遺跡は弥生時代中期から奈良・平安時代にかけては集落の一部であったと考えられます。今回の調査区が台地のへりに相当することから、特に、竪穴住居跡や掘立柱建物跡が複数見つかった奈良・平安時代には、おそらく調査区北側の平坦地には、多数の遺構による大集落が存在していた可能性が高いといえます。

奈良・平安時代

住居跡(2007年1月) ➡



考古学ミニコラム 第5回

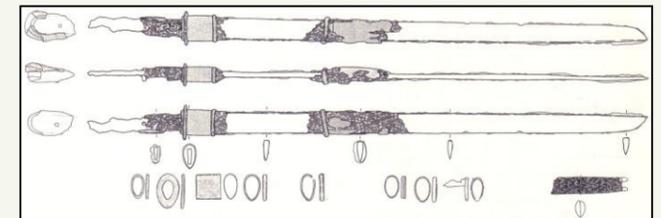
考古学のホットな話題や資料の見方を取り上げたり、講座等で多く寄せられた質問に答えます。

—古墳時代の刀—

古墳時代の後半は、副葬品として多くの武器類が死者に副えられています。それは、権威の象徴でもあり、生前に使用していた遺品であったかもしれません。その中には刀も見られますが、彎曲する日本刀と違って刃が真っ直ぐで、直刀と呼ばれています。

発掘された刀には金(銀)などの装飾がされている直刀もあります。図は小田原市にある久野諏訪の原古墳群第2号墳の直刀です。金銅製の圭頭大刀で、鞘や柄の木質が一部残っており、柄頭、鐔、鞘などに金銅による装飾が見られ、神奈川県内でも優品として評価されています。

副葬品には金銅の耳環などもあることから、煌びやかに身を飾り、金(銀)などによって装飾された刀を持っていた往時の首長の姿が目浮かびます。



土器の表面の写真です。何時代の土器でしょうか～？



こたえは次のページ ➡